

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1回／月の施設会議内で理念の確認、復唱を行い、意識付けと浸透を図り、更にADL状態、介護方法の見直し、事故の振り返り、身体拘束・虐待確認など、情報の伝達・共有、意見交換の場としている。食堂、休憩室、事務所に理念を貼りだしている。	事業所独自の理念が作成されている。ホールや玄関等の目に付く場所に掲示すると共に毎月の会議で復唱及び実践状況の振り返りを行ない、また、理念に沿ったキャッチコピーとコンセプトを作成し職員への浸透を図っている。職員は理念に基づき、地域との交流と笑顔のコミュニケーションを大切にし、利用者のADL等のチェックもこまめに行い、より良い生活に向け支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎月地域に便りを発行し、事業所の活動を報告したり、不要な布類等募ったり、ボランティアの協力を呼び掛けたり、介護講座の出張など呼びかけている。2回／年のお祭りを開催し、地域の方や児童を招いている。	地域交流の推進を理念に掲げており、積極的に地域との交流を図っている。毎年開催している納涼祭・収穫祭は地域の馴染みとなっており、地域の方や児童が多数参加し良い交流の場となっている。また、児童の体験学習の受け入れ、お茶会の開催、小学校の文化祭・運動会等の行事への参加、地域の介護教室への協力、地区の清掃行事への協力など交流の機会を多く設け、また広報誌を地域に配布・回覧して情報発信しながら事業所への理解を求め、つながりをより深めるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所便りに講師派遣案内を記載している。地域の小学校の体験学習を受け入れ、ふれあいの時間の中で高齢者の現状や、特徴などを説明している。3月14日に6年生児童を対象に「認知症サポーター養成講座」を行った。12月13日に市からの委託を受け、家族介護支援事業を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の登録状況や、行事などの活動状況を書面とプロジェクターで報告したり、研修や評価への取り組みを説明している。意見や改善など出た場合は取り組みを行い、次の会議で報告している。	2か月に1回、併設の小規模多機能型事業所と合同で各事業所の利用者代表と家族代表各1名、自治会長、民生委員、市職員、市社協職員、地域包括職員のメンバーで開催し、活動状況や取り組み状況などについて報告して意見交換している。アクシデント・インシデント集計表等の各種資料を用意し、またプロジェクターで写真を映写し利用者の日頃の様子を知ってもらうなど工夫して会議を進め、実りある会議となるよう取り組んでいる。参加者からは各分野に応じた有益なアドバイス等ももらっており、サービスの向上に役立てられている。意見を受け、予防接種の対応方法や業務中の見守り方法を改善した例がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議内で、市町村職員に活動状況を報告するとともに、意見を伺い、アドバイスをいただいている。毎月発行の便りを市役所下田サービスセンターに届け、活動内容を報告している。市による認知症施策総合推進事業に事業所からメンバーとして参加している。	市の高齢介護課職員に運営推進会議に参加してもらっており、会議での報告や意見交換を通じて事業所の状況について把握してもらっている。また、日頃から不明点等があればこまめに相談し確認している。市の家族介護支援事業に協力したり、管理者が市主催の「認知症ケアサポート会議」のメンバーとして協力したりしながら市と連携し、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1回/月のグループホーム会議内で身体拘束にあてはまる事はないか確認し、各ご利用者における留意事項についても話し合いを行っている。施設内研修や同一法人の開催する身体拘束・虐待に関する研修に参加し、理解を深めている。	定期的に研修を実施し、身体拘束をしないケアについて学んでいる。法人内の委員会からの報告を基にした勉強会も行っている。また、毎月の会議の中で、声のかけ方等で気づいた事の実例を挙げ、該当することは無いか話し合い、利用者1人ひとりの対応を検討している。施錠はせず、外に出たい方には付き添って外に出るなど無理強いせず自由な暮らしを支援している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1回/月のグループホーム会議内で虐待にあてはまる事はないか、言葉遣いは適切であるか話し合いを行っている。施設内研修や同一法人の開催する身体拘束・虐待に関する研修に参加し、理解を深めている。	定期的に研修を実施し、虐待の防止について学んでいる。法人内の委員会からの報告を基にした勉強会も行っている。また、毎月の会議の中で、言葉使い等で気づいた事の実例を挙げ、該当することは無いか話し合い防止に向け検討している。入浴時等に利用者のアザの有無など状態観察を綿密に行い、虐待を見逃さないよう注意を払っている。管理者・主任は職員のストレスにも配慮し、日頃から話を良く聴き、また定期的に個人面談も実施してストレス軽減に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われるケースがあれば、家族へ働きかけ、市役所と連携し、実施に向けて取り組む。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書、利用料等家族の前で読み上げ、十分に説明を行っている。改定時等、文書による周知と電話連絡で説明を行っている。解約時は再契約の可能性、他施設利用時の情報提供、相談援助等対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の自治会から出た希望など定期会議内で検討し、取り組み可能な場合は全体連絡ノートやカンファレンスで周知を図っている。ご家族に対してのアンケート調査結果を職員で回覧し、改善に取り組んでいる。	利用者からは、日々のかかわりの中で聴いているほか、利用者の自治会の中で出された食べたいものや行きたい所などの意見・要望を取り入れ、可能な限り支援している。言葉の少ない方にも意識的に話しかけ聴くようにしている。家族からは、面会時や電話連絡時に聴いているほか、定期的にアンケート調査も実施し、幅広く意見・要望を募るよう努めている。把握した情報は会議等で検討し、出来る限り運営に反映するよう努めている。決定事項は全職員に周知し、統一したケアの実施に取り組んでいる。アンケート結果や、意見を基に改善した事や取り組み内容などは家族・職員に公開し、更なる改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常的に意見等言い易い環境作りを努めており、定期会議やカンファレンスでは職員の意見や提案等聞く機会を設け、可能な範囲で業務に反映させている。	職員が管理者・主任代理に何でも話しやすい雰囲気が出来ており、職員は日頃から気づいた事があればその都度、意見・提案・相談を行なっている。毎月の会議でも職員は活発に意見・提案を出し皆で検討し、利用者一人ひとりに対してこまやかな対応が出来るよう全員で取り組んでいる。また、年3回の個人面談を実施するなど、意見や提案を行う機会が多く設けられている。出された意見・提案は可能な範囲で運営に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として正職員への登用制度、資格手当支給制度があり、また異動希望調査があり、希望する部署や職種へ異動の機会がある。資格取得の場合は、それを活かせる業務体制がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内研修への参加、バックアップ施設の研修参加、外部研修への参加等積極的に勤めている。今年度も、資格取得支援として、介護支援専門員受験講座を開いた。年度当初に個人に目標をたててもらい、上司より目標達成に対するアドバイスを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に出かける折を利用し、同業者との交流の機会をもってもらっている。また、他施設の行事へも積極的に参加し、訪問時を利用し交流している。同法人施設とも随時交流の機会をもち、情報交換している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前面接を行い、ご本人、ご家族の要望を聴き取り、不安や疑問に対しては十分な説明を行っている。入所後も居室担当を中心に定期モニタリングやグループホーム会議内でご本人が安心した生活を送れているか話し合いを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時に、ご家族の不安や意向を伺う他、入所後の面会時等には積極的にご利用者の状態を伝えている。今後についての相談を受けた場合は、選択肢を提案し、検討・対応する事で安心していただける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申込時や事前面接時に、ご本人・ご家族が必要としている支援を聴き取り、提供可能なサービスを説明し、対応が難しい支援の場合位には他サービス機関の情報も併せて提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴の中から浮上したご本人の性格や得意な事などを把握し、ご利用者同士、または職員と共に気持ち良く活動・作業が行えるよう心がけている。張り合いを感じていただけるよう役割を持っていただいたり、自分でできる事は自分で行っていただくよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での様子を、面会時や誕生会などの行事で伝えている。行事案内を送付し、一緒に過ごしていただく企画も行っている。日頃から協力の依頼や、協力体制の確保に努め、共に支え合う関係を築けるよう努めている。	毎月花みずき便りを送付したり、面会時や電話時に様子を報告している。誕生会やクリスマス会、納涼祭・収穫祭などの行事毎に参加を呼びかけ、ホームに足を運んでもらう機会を設け共に過ごす時間が増えるよう取り組んでいる。面会時にはお茶を出しゆっくりとしていってもらうよう配慮している。また、家族交流忘年会を毎年開催し、家族同士の交流の機会も提供している。必要時には協力依頼も行ない、共に本人を支えるという関係の構築に努めている。	事業所便りで事業所全体の様子を知らせているが、一人ひとりの様子を知らせる個別の便りの送付は行われていない。口頭の報告のみでなく、利用者個々の様子を知らせる便り・写真等を送るなどして利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝え、家族と職員の思いが重なるよう計らい、より深い協力関係を構築することに期待したい。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方との交流の機会を大切にしており、地域行事に参加したり、施設行事に地域の方を招いている。ご利用者の生活の様子やボランティアの募集など、毎月発行の便りに掲載し、学校や公民館などに配布して様子を知らせて頂くとともに、地域に密着できるよう努めている	入居時に馴染みの関係について本人や家族・関係者から情報を得ている。入居後も把握に努め、得た情報は記録して共有している。得た情報を基に、馴染みの行事である三條祭りを見に行ったり、スーパーや図書館、地元の名所など馴染み場所へ出かけている。また、小学校の催事や地域の祭りなど馴染みの人が集まる場に行ったり、祭りを開催して地域の馴染みの方々を招待し交流するなど、地域との関係継続の支援に取り組んでいる。友人等が面会に来た際にはお茶を出しゆっくりとしていってもらい、「また来てください」と一言添えて見送るなど、関係の継続に配慮した対応を行なっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の得意なこと、苦手なことなどを考慮し、個々ができる軽作業を提供したり、趣味活動など、ご利用者同士が集って楽しめるよう配慮している。トラブルに発展しそうな場合は職員が間に入ることでご利用者同士の良好な関係を築く事ができるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も関連機関への情報提供、相談を行っている。ご家族からの相談を随時受ける事ができる体制である事を伝え、ご本人・ご家族の不安軽減に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話やご本人の様子から、その人の思いや希望をくみ取り、把握するよう心がけている。困難な場合は担当職員がご本人の状態を考慮して、代弁者としてカンファレンスに想いをもち込み、検討材料としている。	夜眠れない時にお茶を飲みながら話を聞いたり、入浴時など1対1で関わる場面を捉え、思いを聞いている。業務を優先せず、利用者の隣でゆっくり寄り添うことを大切にしている。意思の疎通が難しい方には表情やしぐさから思いを把握している。会議前には意識的に情報収集を行ない、職員で話し合うことで本人本位に検討している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者、ご家族、担当ケアマネージャー等関わりのある方から、フェイスシートを活用して積極的に情報を集めている。家族と電話連絡をとる際や、家人・知人等が訪ねてきた時など情報収集することもある。	入居時自宅を訪問し生活環境を確認している。フェイスシートを活用して本人や家族から話を聞いている。また利用していたサービスの関係者から情報を収集している。入居後もこれまでの暮らしの把握に努め、全体連絡ノートに記入し共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活リズムを理解し、生活記録に書きとめ、心身の状態を把握したり、興味を持っている事や気付いた点など介護日誌や連絡ノートにて速やかに申し送り、情報の共有と統一した介護に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を伺うとともに、日々の生活の中で、健康状態や課題を明確にしてケアプランを立案している。担当職員がご本人の留意事項など1回/月の会議前に整理し、会議内で検討する事で更に、モニタリングやケアプラン見直しへつながっている。	月1回の会議で全利用者のケアのあり方について話し合い、意見を出し合っている。居室担当職員は3ヶ月に1回モニタリングを行ない、管理者・計画作成担当者など関係者とサービス担当者会議を開いている。計画作成担当者は家族に計画について説明し、意見をもらっている。必要時アセスメントシートを活用して課題を抽出し、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に個々のご利用者の日々の様子や活動の記録を残し、ケアに関する職員の気付き等は連絡ノートに書いて申し送る事で、職員間の情報共有とモニタリングやケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の状況に応じて受診の送迎、同行など柔軟に対応している。健康面でも必要なら書類を作成し、家族を通してかかりつけ医に相談したり、受診同行して医師に症状を伝えるなど、連携をとりながら支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	踊りやハーモニカ、カラオケボランティアの方から定期的に来ていただき、楽しみの時間を設けている。地域の小学校の運動会や文化祭見学に出かけている。天候のよい時は散歩に出かけ、近所の住民と挨拶を交わしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本としてかかりつけ医に受診することとしている。必要時はかかりつけ医にご利用者の状態や施設での様子を経過をおって記入、受診の際の参考にしてもらったり、ご家族の状況によっては往診も依頼している。状態改善に向け、施設での様子を説明する為、同行受診も行っている。	希望のかかりつけ医に家族同行で受診している。バイタルチェック表のコピーや必要時文書で情報提供し、受診結果は全体連絡ノートに記入して共有している。家族の同行が難しい場合は往診をお願いしている。緊急時など職員が代行することもある。受診時主治医意見書を記入してもらった場合は同行して直接様子を伝えている。また認知症専門医への受診など適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の日頃からの体調管理や状態の変化に注意し、必要なら小規模の看護と情報を共有し、話し合いを行ったりアドバイスをもらう事で、適切な支援を行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された時は、毎月発行の便りをご利用者とケースワーカーに届け、看護師や家人から現在の情報を聞き、状態把握に努めている。退院時にも病院へ出向き、関係者と情報交換を行い、家族・病院関係者とのカンファレンスも実施する体制がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の重度化には、小規模多機能の設備を利用するなど、施設として可能な対応を、家族に説明し、理解と協力を得て、関係者も含めた支援を心がけている。重度のご利用者があれば、ご本人とご家族、主治医の方針や意向の確認を行うとともに、体調変化時等速やかに受診や対応ができるよう支援していく。	常時医療が必要になった場合や、設備的な理由で対応が難しくなることもあり、入居時家族に説明している。重度化しても食事形態の工夫など出来る限りの支援をしているが、状態に応じてその都度家族と話し合い、次のステップを一緒に探すことで適切なサービスが受けられるよう支援している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	園内研修で急変時の対応方法やAED取扱い、酸素ボンベ取扱い、職員への連絡方法を確認している。急変時の対応の流れや、連絡体制などが記されたマニュアルを作成し、日頃確認できる場所に設置してある。	消防署の協力を得て、心肺蘇生・AEDの使い方・応急手当の基礎知識・異物除去について研修や訓練を行っている。ホーム内で起きたインシデントについては全職員で情報共有し、事故防止に努めている。急変時の対応については併設事業所の看護師に連絡・酸素吸入と吸引の準備・バイタルチェックなど手順を確認している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1回/年の緊急連絡網訓練、2回/年の避難訓練を実施している。9月には自治会長から避難訓練に参加していただいた。火災時は消防署からの連絡で消防団から避難補助を受ける体制となっている。事業所からの連絡で、自治会長と近隣住民やセコムから避難補助を受ける体制となっている。地震発生時訓練も行っている。	年2回昼夜想定避難訓練を併設事業所と合同で行っている。訓練前には全職員に資料を配布し、行動を確認するなど、実践的な取り組みに努めている。地震のマニュアルもあり、避難口の確保など訓練を行っている。また自治会長を通して地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なじみの関係でありながらも、一人ひとりを尊敬すべき先輩である意識し、プライバシーやプライドを傷つけないよう配慮した声かけ、対応を行っている。	接遇研修で学んでいる。1人ひとりに合わせた丁寧な言葉かけに配慮している。利用者のペースを大切に一人ひとりの意見に耳を傾け意思を尊重している。トイレ誘導は小声で行わない、衣類の乱れは速やかにさりげなく直すなど誇りを損ねないよう努めている。またミーティングや記録は利用者から離れて行うなどプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話や1回/月の自治会でご利用者の希望や関心のあることを取り上げ、実践につなげている。入浴時など着替えはご本人に選んでいただいたり、選択しやすいよう声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく暮らせるよう、何気ない一言を聴き逃さず、したいことを実現できるよう支援したいと心がけている。散歩・買い物付き添いや、想いおもいの趣味活動、レクリエーション活動など、希望を確認し、それに沿った対応をするよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院にご家族と出かけたり、希望されるご利用者には、床屋に散髪の予約をとり、事業所に出張して頂き、散髪、髭そりを行ってもらっている。また、行事の時などはお化粧をして気分転換を図っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者から野菜切り、盛り付け、食器洗いなど積極的に関わって頂いている。月1回自治会で希望メニューや出前の日を実現し、楽しみのある食事となっている。	利用者の好みを探り入れ職員が献立を作り、管理栄養士が確認している。副食は主に厨房で調理され、その他は利用者と一緒に調理や後片付けをしている。毎月1回の出前の日には近所の食堂から好きなものを選んで注文している。また希望メニューの日・鍋の会・駐車場の焼肉・手作りおやつなど食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1回/月に体重測定を行い、体重増減を管理しつつ食事量等調整している。食事量低下等みられるご利用者には形態変更や別食材を用いて提供するなど柔軟に対応し、栄養確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯みがきやうがい、液体歯磨き等その方に合った口腔ケアを行い、必要であれば助助を行っている。職員全員で口腔ケアに携り、一人ひとりの口腔内の異常確認、状態把握に努めている。夕食後にポリドントを使用し、義歯の清潔維持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜ともにトイレまたはポータブルトイレで排泄していただくよう心がけている。希望時以外にも食事やお茶の時間前後にも声をかけ、トイレ誘導を行っている。表情や仕草、活動の変化からも意思をくみ取り、適宜トイレ誘導を行っている。	排泄チェックによりパターンを把握している。その他食事前後などの定時誘導や表情やしぐさのサインを見逃さず誘導することで失敗がないよう支援している。1人ひとりの排泄が困難な要因を把握し、個別の排泄支援をしている。日中はオムツを使用せず、トイレでの排泄を大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにて、排便のリズムや量・状態の観察を行い、適宜下剤等の調整を行っている。自然な排泄を目指し、水分多めの対応や朝・昼食時のオリゴ糖摂取、水分に乳製品を取り入れている。また、散歩やリハビリ体操など適度な運動の機会も設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望やタイミングに沿った入浴方法でゆっくり入浴していただけるよう努めている。毎月1週間程度入浴剤や季節の物を利用したかわり湯を行い、楽しみのある入浴時間となっている。	午前・午後共入浴が可能で、希望があれば柔軟に対応している。職員との会話を楽しみながら入る方や、ゆっくり一人で入りたい方・シャワーチェアを使用しない方のためにマットを用意したり、使い慣れたシャンプーを持ち込んでもらうなど希望や習慣を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を把握したうえで、軽作業・レクリエーション・運動・外出など適宜提供し、安眠のリズムがとれるよう努めている。眠れない時などは飲み物を提供し、安心できる声かけや傾聴をし、落ち着かれるまで寄り添った支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬剤説明書はご利用者個々の薬保管ケースに入れてあり、薬をセットする際のチャック付き収納バックにも薬剤名、効能等記載している。ご本人が内服するまでに3度のチェックがあり、安全な与薬に努めている。薬の内容に変更があった場合は速やかに連絡ノートで周知し、記載内容を修正している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗いやたたみ物等、ご利用者の経験や能力を活かしていただく機会を設けている。個々が役割を持ち、張り合いのある生活を送れるよう支援している。個々の趣味に合った散歩や生け花、草刈りなど室内外で出来ることを組み合わせ提供し、気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の必要物品購入や、日々の食材購入など声をかけ、一緒に買い物に出かけている。天候に応じて随時ドライブや、地域行事見学等も行い、気分転換を図っている。本体施設と合同で花見の名所に出かけたり弥彦菊祭りにも参加した。	弥彦の菊まつり・村松公園の花見・三条風合戦など遠出している。また下田地区にもヒメサユリの小径・八木ヶ鼻・大谷ダムの紅葉・白鳥の郷公苑など名所が多く、ドライブに出かけている。買い物や散歩・畑作業・駐車場にイスを出して日光浴をするなど戸外に出る機会を大切にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理できる方には外出先で金銭の受け渡しをしてもらうよう支援している。金銭管理のできないご利用者であっても、行事や必要物品購入の際は可能な限り金銭の受け渡しをご本人からしていただけるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望時や、家族連絡の際に電話の取り次ぎを行い、いつでもご家族とのつながりが保てるよう支援している。年賀状や手紙、ご家族の写真などファイルにはさみ、いつでも見られるようになっている。ご本人の写真入り直筆の手紙を年初めにご家族に送った。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者と職員による手作りの貼り絵や行事写真など四季を感じさせる飾り付けを展示している。花をご利用者から生けて頂き、玄関やテーブルに飾っている。	フロアの大きな窓からは外の景色が一望でき明るく開放感がある。光の刺激がストレスにならないようカーテンなどで調節している。畳コーナーにコタツ・各所にソファを設置し、好みの場所で過ごせるよう配慮している。また生花や飾り物・利用者と一緒に作った作品を掲示し、季節感を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはテレビやソファが各所に設置しており、好みの場所で休む事ができる。、冬には畳スペースにこたつや座イスを設置している。気のあった者同士でゆったり過ごせるようなテーブル配置となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段使用していた物を居室に持ち込んでいただき、普段の生活スタイルに近い環境の提供に努めている。使い慣れた物を使いやすい配置にし、落ち着ける空間作りを心がけている。	タンスやぬいぐるみなどの小物・家族写真など馴染みの物を持ち込んでもらい自宅の環境に近づけることで、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を立体的に見やすい位置に表示したり、居室には表札や絵柄などを付け、ご本人が確認しやすいようになっている。歩行器など安全に自力移動できるよう、動線状の障害物環境整備を行い、移動スペースを確保し、見守りしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				